

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400401		
法人名	社会福祉法人 きづき会		
事業所名	グループホーム きづきの家(縁ユニット)		
所在地	島根県出雲市大社町杵築西2629		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](https://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年2月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中、外出の機会もほとんどなく、施設敷地内での日々を入居者様には過ごしていただかなくてはならず、どのような支援ができるのか、入居者様の状態を把握しながら職員同士話し合いをし、支援していきました。また面会もなるべく中止にすることなく、15分と時間は短いですが、行うことができました。年々ADLが変化していく中でその変化に素早く気づき対応ができるよう寄り添うケアを継続していきます。

利用者と家族との関係を大事にできるだけ面会ができるように、ガラス越しやデッキでのフィルム越し面会など工夫して支援している。家族の要望から広報紙には写真を多く載せて送り、「表情がわかる」と喜ばれている。外部の人との交流を自粛せざるを得ない状況があるが、今年地元町内が担当だったこともあり、利用者に馴染みの地元行事「吉兆さん」で仮装した大勢の人が事業所を訪れてくれた。より良い生活の支援を目指してユニットの構成を模索しながら、利用者が「人として・人らしく・人と共に」生活できるよう利用者を尊重したケアの実践に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を掲げている生活を提供できるように実践している。振り返りの機会を設け再確認する必要性もある。	事業所としての基本理念を掲げ、利用者が尊厳をもって生活できるように理念を念頭に置いて支援することに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はコロナ禍でなかなか行えていないのが現状である。	町内会の祭りや合同での避難訓練はコロナのためできなかったが、公会堂の掃除や集まりに管理者が参加し関係を継続している。実習生の受け入れを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は勉強会などを行っていたが、コロナ禍の関係でできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を実施している。コロナ関係で出来なかった月もあり。施設内の行事や日常を報告している。	感染状況や参加者の意向を聞きながら対面や書面で開催している。利用者の状況や行事などを報告し、日頃の様子をスライドで紹介したりコロナや身体拘束、避難訓練などの質問を受けたり意見交換をしている。	コロナ禍で困難な状況はあるが、わかりやすい項目を挙げて状況を詳細に伝え、今後サービス評価ができるような準備を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や困難事例があったりしたら相談していた。	運営推進会議には市役所とあんしん支援センターの職員に一年交代で参加してもらっている。協力関係を築き困難事例など相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施している。	会議や研修を行い全職員が共通認識して取り組んでいる。やむを得ずミトンを使用する場合も原因を探り、統計を取るなどして状況把握を行いその都度対応を検討している。実地指導を受け研修内容の改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を行い、日々のケアの中で言葉遣いなど見直しをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約の際は、契約書や利用料について丁寧に説明を行い同意を得ている。法改正の時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望などは、運営推進会議や面会の時に伺っている。	運営推進会議の案内は全家族に送り複数の家族が参加している。家族から「表情が知りたい」との声があり、広報紙には写真を多く載せ担当職員からのコメントと共に様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会を実施。そこで出た意見はリーダー会で検討している。また普段から職員の意見が言いやすいような環境作りに努めている。	職員が意見を言いやすい環境作りに努め、ユニット会議や全体会などで意見を聞き運営に反映するように取り組んでいる。年1回、管理者が面談を行い個別に意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度人事考課を行い、給与等に反映している。また、管理者との面談も行っており働く意欲につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の人事考課制度を実施。各職員が自己評価し、責任者が最終の評価を行う。年間で研修計画を作成し各事業所で実施。外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会をズームで開催している。コロナもあり、外部での交流の機会はまだない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴し、なるべく不安を取り除き安心して頂けるように寄り添うケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関りは、管理者や介護支援専門員が主に行なっている。職員は、面会時や電話対応などで信頼関係を築くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の生活歴を参考に、自宅での生活習慣が施設でも送って頂けるように努力している。カンファレンスを行い、サービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事を継続して行えるような関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご家族との関係作りは難しくなっているが、面会の時間で関りを深めてもらったり、広報誌で様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出などは出来ていないが、電話や手紙などで関係が途切れない様になっている。また、日常会話の中で話題にあげるようにしている。	ガラス越しやデッキでのフィルム越し面会を実施している。オンラインで面会する家族もある。正月には利用者に馴染みの「吉兆さん」の来訪があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を観察しながら対応している。時には職員が会話の間に入り円滑に穏やかな関係づくりが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などへ移動される場合などは、自施設での様子など情報提供を行い今後の生活が継続できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々ケアの関わりの中で、本人の要望などを聞き出し出来るだけ実現できるようにしている。困難な方にはご家族より情報提供して頂き支援に結びつけるようにしている。	会話や表情、家族からの聞き取りなどから思いの把握に努めている。ADLの変化や帰宅願望、身体的な訴えのある人もあり工夫して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から生活歴を聞き取りし、なるべくこれまでの暮らし方が継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い体調の変化に気をつけている。また会話や表情などから心身状態を読み取りケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が毎月のモニタリングを行い、ユニットではより良く暮らしてもらうにはどうすべきか話し合いを行い介護計画に反映するようにしている。	利用者、家族の希望を聞き、生活歴や自宅での生活習慣が継続できるように介護計画を作成している。全職員が利用者の情報を共有し、毎月モニタリングを行い次の計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を活用し、情報共有を行っている。ユニットで連絡ノートを活用し利用者のケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望を聞き、柔軟な支援が出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は外出等が難しいが、状況が落ち着けば地域資源を活用し豊かな暮らしを支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人と相談し適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医や専門医の関係作りを大切にしている。	入居時に話し合い協力医による受診を支援している。以前は受診をしていたがコロナのため現在は訪問診療になっている。専門外来は職員が同行し、希望の病院に家族が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護に利用者の状態を伝え相談にのってもらっている。24時間何かあれば連絡できる環境の中支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズにでき、安心して生活が送れるように病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や本人の要望に基づき、ケアの方針を決めるようにしている。事業所全体で取り組み本人の思いに寄り添う支援を行うように努めている。	重度化、終末期に向けた方針を共有している。医療的なケアに対しては対応できない場合もあるが、利用者の状況にあわせてその都度話し合いながら全職員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。事故発生時には振り返りをし対応や実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練実施。水害訓練も行っている。地震訓練は町内の訓練時行っている。地域の方の参加はコロナの為行っていない。	夜間想定総合訓練、防災機器の取扱い、法人の協力を得て水害訓練を実施している。市からの避難情報を確認し法人と連携して早めの誘導、避難を意識している。「地震計画」の策定を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、言葉遣いには気をつけるようにしている。排泄などプライバシー保護に努めている。	利用者を尊重した言葉使いや対応を心がけ、部屋に入る時は必ずノックをするなど心がけている。羞恥心に配慮しているが人間的に難しい時もある。全体会で接遇の研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ケアを行う中で本人が思いや希望を言いやすい環境作りに努めている。又一方的に決めるのではなく、選択肢を設け対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた支援を心掛けているが、入浴などは難しく希望に添えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選択してもらい、整髪をご自分でしてもらいなどその人らしい身だしなみの支援をしている。難しい方は職員と一緒にいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在コロナの為一緒に調理等できていないが、行事がある時はなるべく季節を取り入れた食事を提供している。	外注の食事を提供しているが、米とぎや朝の味噌汁作り、盛り付け、下膳など、できる人にはしてもらっている。季節の笹巻きや干し柿作り、定例で月に2回おやつ作りを行い楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量は毎日記録している。又食事形態もその方に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし実施している。難しい方にはスポンジブラシを使用し口腔内を綺麗にしている。義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残し、失敗やタイミングを個々に見直ししている。なるべくトイレでの排泄を行えるよう支援しパット等も定期的に見直しをしている。	できるだけトイレで排泄できるように利用者に合わせて支援している。各ユニットにおむつ担当の職員を設け、皮膚の状態を見て排泄用品を検討したりおむつ使用を減らせるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをし、水分や下痢などで調整している。腹部マッサージや体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の場合は時間や日にちの調整をし無理強いをしないように努めている。しかし、一人一人の要望に全て対応できてはいない。	午前でも午後でも入浴できるように利用者の気持ちに合わせて柔軟に支援している。利用者の状況によってシャワー浴や職員二人で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や明るさ等一人一人が快適な睡眠がとれるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイル把握に努めている。薬の変更あれば連絡ノートに記入し情報共有し、服薬後の状態変化を記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は役割としておこなってもらっている。一人一人の楽しみを支援できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス感染症の為、外出等できていない。	外出は自粛せざるを得なかったが、周辺の散歩や中庭にテーブルや椅子を出してお茶会をするなど支援している。状況を見て地元名所や馴染みの場所にドライブに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方はお金を持っておられる。希望される物を職員が購入し渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は通話の支援をしている。手紙・ハガキが届く方には渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは季節を感じてもらえるよう壁絵を毎月作成している。浴室やリビング内の室温管理にも気をつけている。	手作りの季節の飾り付けをし、ソファーやたみのスペースを設けている。利用者同士の関係に配慮しテーブル席を工夫している。空調設備のない場所は温度管理に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室、陽だまりスポットなど思い思いの場所で過ごしてもらっている。リビングのテーブル配置も居場所作りとして工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、馴染みのある家具や写真を置き、居心地が良い空間作りを工夫している。家具の配置も本人の行動を考慮している。	安全に暮らせるように配置を工夫し、タンスや家族が用意したパネルに貼った大きな写真、ハンガーに掛けた衣類など利用者に合わせて置いている。障子を開けると馴染みの「北山」が見える部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やリビング内は配置を工夫し安全で自立した生活が出来るよう努力している。		